

厚生労働科学研究費補助金（障害者政策総合研究事業）
分担研究報告書

てんかんの地域診療連携体制推進のためのてんかん診療拠点病院運用ガイドラインに関する研究

てんかん診療拠点機関病院受診者調査

研究分担者：氏 名 廣瀬源二郎
所 属 医療法人社団浅ノ川 浅ノ川総合病院てんかんセンター
研究協力者：氏 名 中川裕康、紺谷智、鳥越恵一郎、大西寛明

研究要旨：てんかん診療拠点機関病院受診者調査

当センターは2018年10月に厚労省より石川県てんかん診療拠点機関に選定されたが、それ以前より北陸地方で唯一てんかん外科標榜しており、ビデオ脳波同時モニター、PET・SPECTスキャンなどの画像診断後に適切にてんかん診療してきている。今回の民間病院唯一の拠点機関選定をいただき、他の官公立病院てんかん拠点機関と比較しててんかんで受診する患者の状況が如何なるものかを検討した。

A.研究目的（項目タイトルてんかん診療拠点機関病院受診者調査）

当センターを受診するてんかん患者の状況を把握して全国の他の拠点機関の患者内容との比較検討をする

B.研究方法

当センターを受診する患者およびその家族に、強制でなく自由に当センター作成のてんかんセンター門診票に記入していただく方式

内容は、性別、年齢、入院・外来の区別、周産期、発育歴、家族歴、既往歴に加え、学歴、職業、利き手、自動車免許の有無、初回発作の時期、発作種類と頻度、誘因とした。また受診後状態として、ビデオ脳波同時モニターの有無、外科的手術数、紹介・逆紹介数についても調査した。また患者の現住所を調査した。

（倫理面への配慮）

問診結果はスキャンをして当院デジタルカルテに保存し、患者・家族の許可なく個人情報を公開しないこと、またその取扱いは病院カルテに準ずることを口頭説明し了承の上記載してもらう。

C.研究結果

患者の現住所から、当センター受診患者は石川県70%、富山県20%、福井県9%、他県1%から受診していた。その他のデータ2017–2019年度分を比較して次に示す。
（別紙に拡大した詳細あり）

てんかん患者受診状況調査・件数

		2017	2018	2019
受診患者数(実数)	入院	397	388	466
	外来	1190	1301	1034
受診患者年齢	成人	1117	1192	951
	小児	73	109	83
受診患者性別	男	663	670	580
	女	527	541	454
長時間ビデオ脳波モニタリング検査実施数		70	78	106
外科手術件数		8	17	25
紹介した患者数		328	314	249
紹介された患者数		701	564	503

※成人科：脳神経内科、脳神経外科

D.考察

石川県選定拠点機関とはいえ、その受診患者は石川県居住者70%であり、30%は他県からの受診者であった。2019年度の受診者状況は過去2年と比較して大差ないことが判明した。ただビデオ脳波同時モニター検査と外科手術数がやや増加傾向（20–25%）にあった。

E. 結論

石川県のてんかん診療拠点機関として選定された当センターを受診する県内居住者は70%であり、30%は他県からの受診であることが判明した。受診患者数は過去3年間ほぼ一定していることが判明した。ビデオ脳波同時モニター検査と外科手術数は約2割強の増加を示した。

以上より石川県のてんかん患者および家族の要望に応じており、さらに富山県、福井県のてんかん患者の要望にも応えていると判断した。

F. 健康危険情報

(分担研究報告書には記入せずに、総括研究報告書にまとめて記入)

G. 研究発表

1. 論文発表

廣瀬源二郎、『てんかんの歴史と疫学』日本医師会雑誌； 2019；148(9)：699-702

2. 学会発表

1. 第12回日本てんかん学会東海北陸地方会学術集会

『ペランパネルが皮質振戦に奏功した良性成人型家族性ミオクローヌステんかんの一例』

江口 周一郎、紺谷 智、三秋 弥穂、廣瀬 源二郎

2019年7月6日(土) アクトシティ 浜松 研修交流センター

てんかん研究 2019; 37(3): 839

2. 第155回日本神経学会東海北陸地方会

『ビデオモニタリング脳波でジアゼパム投与による脳波・症状改善を記録できた非けいれん性てんかん重積状態の1例』

江口周一郎、紺谷 智、三秋弥穂、廣瀬源二郎

2019年10月26日(土)、石川県立中央病院

3. 第53回日本てんかん学会学術集会(神戸)

『高齢発症てんかんの背景と治療』

江口周一郎、紺谷 智、三秋弥穂、中川裕康、鳥越敬一郎、廣瀬源二郎

2019年10月31日、神戸国際会議場 てんかん研究 2019;37(2): 492

4. 第53回日本てんかん学会学術集会(神戸)

『結節性硬化症の臨床像の施設による比較』

中川裕康、大西寛明、廣瀬源二郎、黒田文人、新井田要

2019年11月1日、神戸国際会議場4 てんかん研究 2019;37(2): 563

5. 第122回日本小児科学会学術集会(金沢)

『遠隔脳波診断を用いた地方の小児てんかん診療』

中川裕康

日本小児科学会雑誌、123(2):333, 2019

6. 第61回日本小児神経学会学術集会(名古屋市)

『当院における迷走神経刺激療法の検討』

中川裕康、大西寛明

脳と発達、 51 : S374, 2019

H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む。)

1. 特許取得

特記すべきなし

2. 実用新案登録

特記すべきなし

3. その他

C. 研究結果データの拡大詳細

てんかん患者受診状況調査・件数

		2017	2018	2019
受診患者数(実数)	入院	397	388	466
	外来	1190	1301	1034
受診患者年齢	成人	1117	1192	951
	小児	73	109	83
受診患者性別	男	663	670	580
	女	527	541	454
長時間ビデオ脳波モニタリング検査実施数		70	78	106
外科手術件数		8	17	25
紹介した患者数		328	314	249
紹介された患者数		701	564	503

※成人科:脳神経内科、脳神経外科